

2014年10月22日

出雲市当局 様

日本韓国の市民友好を考える会

代表 江角秀人

(電) 090-9733-0910

出雲市野尻町：法王寺に保管されている韓国人の遺骨の返還問題について

### 1 経緯及び事情について

1) 1953(昭和28)年2月 旧簸川郡稗原村川平地区において

韓国人とみられる金 且福さん(行年43歳)が死亡した。

2) これについて地元民がこの人の葬儀を支援し、世話役代表の嘉藤秀次郎さん(故人)がこの葬儀挙行に当たり、法王寺に葬式に対する協力を要請した。そして、当時、法王寺の赤井泰隆住職が出席し仏式法要に協力した。その後日、故人の妻、玉順さんが法王寺に遺骨を持参し「韓国へ帰るので、遺骨を受け取りに来るまで預かってほしい」と述べ、お寺に遺骨を預けた。その後、60年余、玉順さんはとうとう現在までお寺に来なかった。

3) 本年8月31日に当会(日本韓国の市民友好を考える会)他のメンバーにより、法王寺を訪問し、お寺からこの遺骨を韓国(の遺族)へ返還したい旨の意志を確認した。そして、当会が事前に協議を重ねた来た韓国民団島根地方本部団長から「以前はそれほどでもなかったが最近、韓国政府から遺骨返還に際し、遺骨が韓国人の遺骨である旨の公的証明書を提出するよう、韓国民団中央本部から指示を受けているので、この取扱いをお願いします」との意見が表明された。

4) 保管されている遺骨の韓国返還に対する協力を法王寺から要請された当会は10月に入り、出雲市稗原町住民などに対し①当時、同地に韓国人が居住していたこと②金且福氏の葬儀などの確認証言など調査活動を行っているところです。

### 2 出雲市当局に対するこの取り組みに対するご支援ご協力をお願い事項

2015年はアジア太平洋戦争敗戦70年!日本韓国条約締結(日韓国交正常化)50年という節目の年です。だが今日、日韓市民関係は交流が拡大しているが、必ずしも両国市民間の相互関係意識は、両国政府関係の悪化の中で良好とは言えない状況にあります。このような中で、島根：出雲と朝鮮半島：韓国との歴史的出来事として当時の稗原村民が死亡韓国人に対し積極的な姿勢で葬儀を執行した事は後世に残すべき記念事項である。

### 3 こうした立場から「これが韓国人の遺骨である」との確認に向けたお願い事項

具体的な要請事項

- 1、1953年2月当時、簸川郡稗原村に韓国人(朝鮮人)金 且福さん(当時43歳)が居住していた住民簿?や戸籍などの証拠書類の存在確認やその証明
- 2、1953年2月に韓国人(朝鮮人)金 且福さんが死亡した証明書の存在確認や証明
- 3、今後、計画する韓国人 金且福氏の「慰霊や韓国返還事業」などに対する可能な範囲のご支援ご協力
- 4 その他

2014年10月23日

各位

日本韓国の市民友好の会  
江 角

## 当面の「法王寺の遺骨問題」や「高窪炭鉱調査」の取り組みについて

### \* 11月2日(日)の活動計画について

#### 1) 法王寺の遺骨問題

11月2日(日) 午前9時30分～

\* 集合：実施場所 出雲市稗原町：川平集会所

\* 遺骨韓国人 金且福さん(日本名：金本さん?)を知り、葬儀の件も記憶にある 出雲市稗原町川平に住む高野貞夫さんがY新聞で韓国人遺骨問題のことを知り、地元で話題になった。10/22、地元の方からこの話を聞き、高野さんに当時の証言をお願いしたところ、快く他の方々と共に証言して頂くことになった。

\* 証言聞く会/出席者：①高野貞夫さん②安食さん(10/13証言)③嘉藤スエ子さん



#### 2) 高窪：島根報国炭鉱の坑口調査など

\* 11月2日(日) 午後～

\* 以前の島根報国炭鉱に対する2ヶ所の坑口の調査発掘作業を実施する

\* 調査対象や方法は、当日に判断する。参加者は作業着の準備をお願いする。

### \* 出雲市の「故韓国人 金且福さんの戸籍や死亡届」調査協力について

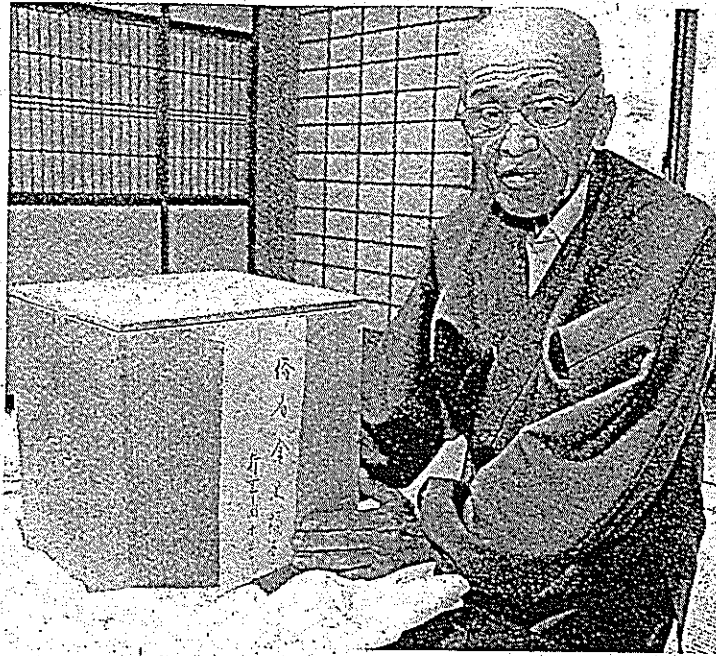
- 1) このことについて、10月22日(水) 午後、法王寺の前及び現住職と相談後、出雲市役所の市民課(対応：Y次長兼市民課長、戸籍担当)に出向き、協力の協議を行った。
- 2) 結果、①60年前の出来事、②日本人から朝鮮人へ戸籍が変遷した、③当該居住の村がS30年に、出雲市と合併し、出雲市として必ず戸籍や届が発見できるか確約できない。
- 3) 11月の互い都合の良い日に{法王寺と会からの出雲市長へ「遺骨の韓国返還協の申し入れ}に対し出雲市長が対応できるかどうか、申し入れ内容と共に検討し返事する
- 4) 外国人の過去の戸籍など調査した経験がなく今後、いろいろ情報を提供してほしい。
- 5) 会「ダメ元で良いので調査協力をお願いする」(江角)。出雲市「市民課とし協力はやぶさかではない。戸籍も死亡届もない場合も公文書回答するのか？」会「出してほしい」

# 朝鮮出身者遺骨「家族に」

## 出雲の寺に60年以上

戦時中、雲南市三刀屋町にあった高窪炭鉱で働いていたとみられる朝鮮半島出身男性の遺骨が、出雲市野尻町の山あいにある「法王寺」に眠っている。終戦後も炭鉱に近い同市稗原町で暮らして、1953年に亡くなった際、懇ろに葬儀を行ったが、その後、遺骨を預けた遺族と音信不通に。同寺の前任職、赤井泰賢さん(88)は「できれば遺族にお返ししたい」と願い、協力を申し出た市民団体が調査を始めた。

(高田史朗)



遺骨は木箱に納められ、昭和廿八年二月三日、寒光照道信士 位／俗名 金且福 享年／行年四十三才と書かれた紙が添えられている。

赤井さんによると、同寺のある旧稗原村では炭鉱で働いていた朝鮮半島出身者らが戦後も生活し、金さんもその一人だった。亡くなった際、地域の世話役だった嘉藤秀次郎さん(故人)が「きちんと用いたい」と同寺に依頼。当時住職だった赤井さんの父、泰隆さん(同)が戒名を付け、金さんの妻・玉順さん

## 高窪炭鉱労働「金さん」市民団体調査

りと葬式を執り行った。玉順さんはその後、「帰国するので、迎えに来るまで預かってほしい」と同寺に遺骨を預け、そのまま連絡が取れなくなったという。

同炭鉱の調査をしている県内の市民グループ「日本韓国の市民友好を考える会」が今年7月に同寺を訪ねた際、長年、預かったままになっていく遺骨の返還話が持ち上がった。同会は地元の高齢者を訪ね、聞き取り調査に着手、関係する国際団体とも遺骨返還に向けた交渉を進めている。

同会の江角秀人代表(63)は「戦後、朝鮮半島出身者は日本各地で非常に苦勞した。旧稗原村のような山間部に彼らの世話をする住民がいたという友好の歴史を発掘すること自体、日韓関係が難しいこの時期こそ大切な」と話している。

「遺骨を遺族にお返ししたい」と話す赤井さん(出雲野尻)